

2026度 教科シラバス

高校2年

目次

古典探究（S特選文系）・・・	2	体育・・・	23
古典探究（特選文系）・・・	3	保健・・・	24
現代文（S特選文系）・・・	4	音楽Ⅰ・・・	25
現代文（特選文系）・・・	5	美術Ⅰ・・・	26
国語演習（S特選理系）・・・	6	書道Ⅰ・・・	27
国語演習（特選理系）・・・	7	英語コミュニケーションⅡ（S特選 文系理系）・・・	28
地理総合（S特選 文系理系）・・・	8	英語コミュニケーションⅡ（特選 文系理系）・・・	29
地理総合（特選 文系理系）・・・	9	論理・表現Ⅱ（S特選 文系理系）・・・	30
世界史探究（S特選文系）・・・	10	論理・表現Ⅱ（特選 文系理系）・・・	31
世界史探究（特選文系）・・・	11	論理・表現Ⅱ（S特選・特選 文系理系 NET）・・・	32
日本史探究（S特選文系）・・・	12	情報Ⅰ・・・	33
日本史探究（特選文系）・・・	13		
数学Ⅱ（S特選・特選 文系）・・・	14		
数学Ⅱ（S特選・特選 理系）・・・	15		
数学B（S特選・特選 文系）・・・	16		
数学B（S特選・特選 理系）・・・	17		
物理（S特選・特選 理系）・・・	18		
化学基礎（S特選・特選 理系）・・・	19		
生物（S特選・特選 理系）・・・	20		
地学基礎（S特選・特選 文系）・・・	21		
化学基礎（S特選 文系）・・・	22		

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校2年	国語	古典探究	S特選 (文系)	3	「高等学校古典探究」(数研出版) 「体系古典文法」 「体系古典文法学習ノート」「まぎらわしい語の識別マスターノート」 「助詞マスターノート」(数研出版) 「重要古文単語315」(桐原書店) 「力をつける古典2」(数研出版) 「基本セミナー漢文入門」 「例文による漢文の習得」(浜島書店) 「新訂国語総覧」(啓隆社)

教科・科目の概要と目標

学習方法と流れ

○言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。

1. 古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方や感じ方、考え方の幅を広げ、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。
2. 国立大学受験を見据えた記述指導や演習を積極的に行い、確かな実践力を培う。

1. 文法の学習においては、予習として文法書の該当部分を熟読しておくこと。適宜問題演習を行い、知識の定着をはかること。
2. 古文読解の学習においては、予習として本文をノートに書き写し、読み・単語の意味・品詞を確認しておくこと。
3. 漢文読解の学習においては、予習として本文をノートに書き写し、読み・単語の意味・句法を確認しておくこと。
4. 古文単語文法テスト・漢文句法テストを通して、一つ一つ着実に覚えていくこと。

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	【古文教材】 説話『十訓抄』 【古文文法】 助動詞復習 敬語基礎 【漢文教材】 故事・逸話 【漢文句法】 否定・疑問・反語	【古文教材】 物語『更級日記』 【古文文法】 まぎらわしい語の識別 【漢文教材】 漢詩(古体詩を中心に)・『論語』 【漢文句法】 漢詩のきまり	【古文教材】 物語『源氏物語』 【古文文法】 敬語応用 【漢文教材】 思想『莊子』 【漢文句法】 使役・受身・比較	【古文教材】 随筆『方丈記』 【古文文法】 総復習 【漢文教材】 史伝『史記』 【漢文句法】 仮定・累加・抑揚	【古文教材】 歴史物語『大鏡』 【古文文法】 総復習 【漢文教材】 思想『韓非子』 【漢文句法】 選択・総復習

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	①生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けられている。 ②日本の伝統的な言語文化に対する理解を深められている。	授業内小テスト(単語・文法・漢文句形・漢文語彙など) 定期考査
思考力 判断力 表現力	①論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力が伸長している。 ②古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。	授業内小テスト(単語・文法・漢文句形・漢文語彙など) 定期考査
主体的に学習に取り組む態度	①言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。 ②生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させようという意識が見られる。 ③日本の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。	課題 グループワークまたは個人ワーク

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校2年	国語	古典探究	特選 (文系)	3	「高等学校古典探究」(数研出版) 「体系古典文法」 「体系古典文法学習ノート」「まぎらわしい語の識別マスターノート」 「助詞マスターノート」(数研出版) 「重要古文単語315」(桐原書店) 「力をつける古典2」(数研出版) 「基本セミナー漢文入門」 「例文による漢文の習得」(浜島書店) 「新訂国語総覧」(啓隆社)

教科・科目の概要と目標

学習方法と流れ

○言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。

1. 古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方や感じ方、考え方の幅を広げ、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。
2. 国公立大学受験を見据えた記述指導や演習を積極的に行い、確かな実践力を培う。

1. 文法の学習においては、予習として文法書の該当部分を熟読しておくこと。適宜問題演習を行い、知識の定着をはかること。
2. 古文読解の学習においては、予習として本文をノートに書き写し、読み・単語の意味・品詞を確認しておくこと。
3. 漢文読解の学習においては、予習として本文をノートに書き写し、読み・単語の意味・句法を確認しておくこと。
4. 古文単語文法テスト・漢文句法テストを通して、一つ一つ着実に覚えていくこと。

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	【古文教材】 説話『十訓抄』 【古文文法】 助動詞復習 敬語基礎 【漢文教材】 故事・逸話 【漢文句法】 否定・疑問・反語	【古文教材】 物語『更級日記』 【古文文法】 まぎらわしい語の識別 【漢文教材】 漢詩(古体詩を中心に)・『論語』 【漢文句法】 漢詩のきまり	【古文教材】 物語『源氏物語』 【古文文法】 敬語応用 【漢文教材】 思想『莊子』 【漢文句法】 使役・受身・比較	【古文教材】 随筆『方丈記』 【古文文法】 総復習 【漢文教材】 史伝『史記』 【漢文句法】 仮定・累加・抑揚	【古文教材】 歴史物語『大鏡』 【古文文法】 総復習 【漢文教材】 思想『韓非子』 【漢文句法】 選択・総復習

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	①生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けられている。 ②日本の伝統的な言語文化に対する理解を深められている。	授業内小テスト(単語・文法・漢文句形・漢文語彙など) 定期考査
思考力 判断力 表現力	①論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力が伸長している。 ②古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。	授業内小テスト(単語・文法・漢文句形・漢文語彙など) 定期考査
主体的に 学習に 取り組む 態度	①言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。 ②生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させようという意識が見られる。 ③日本の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。	課題 グループワークまたは個人ワーク

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校2年	国語	現代文	S特選 (文系)	3	精選論理国語(数研出版) 文学国語(数研出版) 「書いてマスター常用漢字」(文英堂) 「読解を深める現代文単語」(桐原書店) 「LT現代文3」(浜島書店) 「上級現代文I」(桐原書店) 「新訂国語総覧」(啓隆社)

教科・科目の概要と目標

学習方法と流れ

<p>○言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。</p> <p>①近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語力の向上を図り、効果的に活用できるようにする。</p> <p>②論理の展開や要旨を的確に捉える。</p> <p>③物事に対する考え方を深める。</p> <p>④国公立大学受験を見据えた記述や演習を通して、確かな基礎力と実践力を培う。</p>	<p>1、現代文読解の学習においては、予習として読み・単語の意味・段落を確認しておくこと。</p> <p>2、現代文漢字テスト・現代文語彙テストを通して、一つ一つ覚えていくこと。</p>
---	---

	I学期始め～I学期中間	I学期中間～I学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
I年間の授業の進度	【評論】 学問の発見…思想 【評論】 「具体」から「抽象」へ…言語 【読書課題】 『海と毒薬』 遠藤周作	【評論】 未来世代への責任…社会 【小説】 「山月記」 【読書課題】 『李陵』 中島敦	【詩歌】 「永訣の朝」 【評論】 「科学・技術の歴史の中での社会」…科学 【読書課題】 『こころ(上・中)』 夏目漱石	【小説】 「こころ」 【評論】 国境を超える言葉…言語 【読書課題】 『現代日本の開化』 夏目漱石	【詩歌】 「俳句」・言語活動 【評論】 「いき」の美学…芸術 【読書課題】 『蠅』 横光利一 『クリーム』 村上春樹

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	①実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 ②新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深められている。 ③生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、日本の言語文化に対する理解を深めることができる。	授業内小テスト(漢字・語彙など) 定期考査
思考力 判断力 表現力	①論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養っている。 ②他者(作品含む)との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 ③深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養っている。	授業内小テスト(漢字・語彙など) 定期考査
主体的に 学習に 取り組む 態度	①言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。 ②生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させようという意識がみられる。 ③日本の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。	課題 グループワークまたは個人ワーク

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校2年	国語	現代文	特選 (文系)	3	「精選論理国語」(数研出版) 「文学国語」(数研出版) 「書いてマスター常用漢字」(文英堂) 「読解を深める現代文単語」(桐原書店) 「LT現代文3」(浜島書店) 「上級現代文1」(桐原書店) 「新訂国語総覧」(啓隆社)

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>○言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。</p> <p>①近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、もの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語力の向上を図り、効果的に活用できるようにする。</p> <p>②論理の展開や要旨を的確に捉える。</p> <p>③物事に対する考え方を深める。</p> <p>④国公立大学受験を見据えた記述や演習を通して、確かな基礎力と実践力を培う。</p>	<p>1、現代文読解の学習においては、予習として読み・単語の意味・段落を確認しておくこと。</p> <p>2、現代文漢字テスト・現代文語彙テストを通して、一つ一つ覚えていくこと。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	<p>【評論】 学問の発見…思想</p> <p>【評論】 「具体」から「抽象」へ…言語</p> <p>【読書課題】 『海と毒薬』 遠藤周作</p>	<p>【評論】 未来世代への責任…社会</p> <p>【小説】 「山月記」</p> <p>【読書課題】 『李陵』 中島敦</p>	<p>【詩歌】 「永訣の朝」</p> <p>【評論】 「科学・技術の歴史の中での社会」…科学</p> <p>【読書課題】 『こころ(上・中)』 夏目漱石</p>	<p>【小説】 「こころ」</p> <p>【評論】 国境を超える言葉…言語</p> <p>【読書課題】 『現代日本の開化』 夏目漱石</p>	<p>【詩歌】 「俳句」・言語活動</p> <p>【評論】 「いき」の美学…芸術</p> <p>【読書課題】 『蠅』 横光利一 『クリーム』 村上春樹</p>

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	<p>①実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。</p> <p>②新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深められている。</p> <p>③生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、日本の言語文化に対する理解を深めることができる。</p>	<p>授業内小テスト(漢字・語彙など)</p> <p>定期考査</p>
思考力判断力表現力	<p>①論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養っている。</p> <p>②他者(作品含む)との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</p> <p>③深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養っている。</p>	<p>定期考査</p> <p>授業内小テスト(漢字・語彙など)</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>①言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。</p> <p>②生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させようという意識がみられる。</p> <p>③日本の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。</p>	<p>課題</p> <p>グループワークまたは個人ワーク</p>

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校2年	国語	国語演習	S特選 (理系)	3	「精選論理国語」「文学国語」「高等学校古典探究」(数研出版) 「書いてマスター常用漢字」(文英堂)「読解を深める現代文単語」(桐原書店) 「LT現代文3」(浜島書店)「体系古典文法」「体系古典文法学習ノート」「まぎらわしい語の識別マスターノート」「助詞マスターノート」(数研出版)「重要古文単語315」(桐原書店)「力をつける古典2」(数研出版)「基本セミナー漢文入門」「例文による漢文の習得」(浜島書店)「新訂国語総覧」(啓隆社)

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>○言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。</p> <p>【現代文】 近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方や考え方を深め、進んで読書することによって、国語力の向上を図る。</p> <p>【古典】 古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方や考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。</p>	<p>1、現代文読解の学習においては、予習として読み・単語の意味・段落を確認しておくこと。</p> <p>2、文法の学習においては、予習として文法書の該当部分を熟読しておくこと。適宜問題演習を行い、知識の定着をはかること。</p> <p>3、古文読解の学習においては、予習として本文をノートに書き写し、読み・単語の意味・品詞を確認しておくこと。</p> <p>4、漢文読解の学習においては、予習として本文をノートに書き写し、読み・単語の意味・句法を確認しておくこと。</p> <p>5、漢字テスト・現代文語彙テスト・古文単語テスト・古典文法テスト・漢文句法テストをとおして、一つ一つ覚えていくこと。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	<p>【現代文】 学問の発見…思想</p> <p>【古文】 「十訓抄」</p> <p>【漢文】 句法</p> <p>【読書課題】</p> <p>『海と毒薬』 遠藤周作</p>	<p>【現代文】 「山月記」</p> <p>【古文】 文法 (助詞)</p> <p>【漢文】 漢詩</p> <p>【読書課題】</p> <p>『李陵』 中島敦</p>	<p>【古文】 「源氏物語」</p> <p>【漢文】 「四面楚歌」</p> <p>【読書課題】</p> <p>『ころ(上・中)』 夏目漱石</p>	<p>【現代文】 「ころころ」 国境を超える言葉</p> <p>…言語</p> <p>【読書課題】</p> <p>『現代日本の開化』 夏目漱石</p>	<p>【現代文】 「『いき』の美学」 …芸術</p> <p>【古文】 問題演習</p> <p>【漢文】 思想 (道家)</p> <p>【読書課題】</p> <p>『蠅』 横光利一 『クリーム』 村上春樹</p>

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	<p>①実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。</p> <p>②新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深められている。</p> <p>③生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、日本の言語文化に対する理解を深めることができる。</p> <p>④日本の伝統的な言語文化に対する理解を深められている。</p>	授業内小テスト 定期考査
思考力 判断力 表現力	<p>①論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養っている。</p> <p>②他者(作品含む)との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。</p> <p>③深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養っている。</p> <p>④深く共感したり豊かに想像したりする力が伸長している。</p> <p>⑤古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。</p>	授業内小テスト 定期考査
主体的に 学習に 取り組む 態度	<p>①言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。</p> <p>②生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させようという意識がみられる。</p> <p>③日本の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。</p>	課題 グループワークまたは個人ワーク

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校2年	国語	国語演習	特選(理系)	3	「精選論理国語」「文学国語」「高等学校古典探究」(数研出版) 「書いてマスター常用漢字」(文英堂)「読解を深める現代文単語」(桐原書店)「LT現代文3」(浜島書店)「体系古典文法」「体系古典文法学習ノート」「まぎらわしい語の識別マスターノート」「助詞マスターノート」(数研出版)「重要古文単語315」(桐原書店)「力をつける古典2」(数研出版)「基本セミナー漢文入門」「例文による漢文の習得」(浜島書店)「新訂国語総覧」(啓隆社)

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>○言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。</p> <p>【現代文】 近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方や考え方を深め、進んで読書することによって、国語力の向上を図る。</p> <p>【古典】 古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方や考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。</p>	<p>1、現代文読解の学習においては、予習として読み・単語の意味・段落を確認しておくこと。</p> <p>2、文法の学習においては、予習として文法書の該当部分を熟読しておくこと。適宜問題演習を行い、知識の定着をはかること。</p> <p>3、古文読解の学習においては、予習として本文をノートに書き写し、読み・単語の意味・品詞を確認しておくこと。</p> <p>4、漢文読解の学習においては、予習として本文をノートに書き写し、読み・単語の意味・句法を確認しておくこと。</p> <p>5、漢字テスト・現代文語彙テスト・古文単語テスト・古典文法テスト・漢文句法テストをとおして、一つ一つ覚えていくこと。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	<p>【現代文】 学問の発見…思想</p> <p>【古文】 「十訓抄」</p> <p>【漢文】 句法</p> <p>【読書課題】</p> <p>『海と毒薬』 遠藤周作</p>	<p>【現代文】 「山月記」</p> <p>【古文】 文法 (助詞)</p> <p>【漢文】 漢詩</p> <p>【読書課題】</p> <p>『李陵』 中島敦</p>	<p>【現代文】 「科学・技術の歴史の中での社会」…科学</p> <p>【古文】 「源氏物語」</p> <p>【読書課題】</p> <p>『こころ(上・中)』 夏目漱石</p>	<p>【現代文】 「こころ」</p> <p>【漢文】 「四面楚歌」</p> <p>【読書課題】</p> <p>『現代日本の開化』 夏目漱石</p>	<p>【現代文】 「『いき』の美学」…芸術</p> <p>【古文】 問題演習</p> <p>【漢文】 思想(道家)</p> <p>【読書課題】</p> <p>『蠅』 横光利一</p> <p>『クリーム』 村上春樹</p>

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	<p>①実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。</p> <p>②新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深められている。</p> <p>③生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、日本の言語文化に対する理解を深めることができる。</p> <p>④日本の伝統的な言語文化に対する理解を深められている。</p>	授業内小テスト 定期考査
思考力 判断力 表現力	<p>①論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養っている。</p> <p>②他者(作品含む)との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。</p> <p>③深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養っている。</p> <p>④深く共感したり豊かに想像したりする力が伸長している。</p> <p>⑤古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。</p>	授業内小テスト 定期考査
主体的に学習に取り組む態度	<p>①言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。</p> <p>②生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させようという意識がみられる。</p> <p>③日本の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。</p>	課題 グループワークまたは個人ワーク

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校2年	地理歴史	地理総合	S特選 (文系) (理系)	2	『新地理総合』(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院) 新詳地理資料COMPLETE 2026(帝国書院) 大学入試対策デジタル実践問題集 地理総合、地理探究(帝国書院)

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けます。地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養います。地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深めます。</p>	<p>1. 予習…範囲の教科書を熟読する。 2. 授業中の取り組み…①板書をノートに書き写す。②教師の説明をノートに書き記しておく。③プリントは授業に沿って適宜書き込みを行う。 3. 家庭学習…①プリントと板書を読み直し、教科書・地図帳で学習した範囲を確認する。②わからない所、納得できない所があれば、積極的に質問しにくること。 4. 注意点…地理は内容が多いため、全範囲の学習は高3までかかります。高2から学習を着実に積み重ねることが重要です。 『地図帳はぜったいに授業に持ってくること!』地形や気候の分布を何度も目にしなければ地理の学習が定着しません!</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	地図や地理情報システムでとらえる現代世界 「地図や地理情報システム」 結びつきを深める現代世界 「交通」「情報」「移動」「貿易」	世界の地形と人々の生活 人々の生活文化と多様な地理的環境 「各気候区分と人々の暮らし」	世界の言語・宗教と人々の生活 歴史的背景と人々の生活 世界の産業と人々の生活	さまざまな地球的課題と国際協力 「地球環境問題」 「資源エネルギー問題」 「人口問題」 「食糧問題」 「居住・都市問題」	自然環境と防災 「日本の地形と気候」 「様々な自然災害と防災」 「自然災害への備え」 生活圏の調査と地域の展望

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	地理に関わるさまざまな事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解している。 地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べてまとめる技能を身につけている。	定期考査 小テスト
思考力 判断力 表現力	地理に関わるさまざまな事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。また、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	定期考査 レポートやワークシートなどの提出物 グループワークや個人ワークへの取り組み状況やその内容 その他
主体的に学習に取り組む態度	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。 地理に関わるさまざまな事象について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	ノートなどの提出物 レポートやワークシートへの取り組み状況やその内容 グループワークや個人ワークへの取り組み状況やその内容

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校2年	地理歴史	地理総合	特選 (文系) (理系)	2	『新地理総合』(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院) 新詳地理資料COMPLETE 2026(帝国書院) 大学入試対策デジタル実践問題集 地理総合、地理探究(帝国書院)

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けます。地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養います。地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深めます。</p>	<p>1. 予習…範囲の教科書を熟読する。 2. 授業中の取り組み…①板書をノートに書き写す。②教師の説明をノートに書き記しておく。③プリントは授業に沿って適宜書き込みを行う。 3. 家庭学習…①プリントと板書を読み直し、教科書・地図帳で学習した範囲を確認する。②わからない所、納得できない所があれば、積極的に質問しにくる。 4. 注意点…地理は内容が多いため、全範囲の学習は高3までかかります。高2から学習を着実に積み重ねることが重要です。 『地図帳はぜったいに授業に持ってくること!』地形や気候の分布を何度も目にしなければ地理の学習が定着しません!</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	地図や地理情報システムでとらえる現代世界 「地図や地理情報システム」 結びつきを深める現代世界 「交通」「情報」「移動」「貿易」	世界の地形と人々の生活 人々の生活文化と多様な地理的環境 「各気候区分と人々の暮らし」	世界の言語・宗教と人々の生活 歴史的背景と人々の生活 世界の産業と人々の生活	さまざまな地球的課題と国際協力 「地球環境問題」 「資源エネルギー問題」 「人口問題」 「食糧問題」 「居住・都市問題」	自然環境と防災 「日本の地形と気候」 「様々な自然災害と防災」 「自然災害への備え」 生活圏の調査と地域の展望

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	地理に関わるさまざまな事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解している。 地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べてまとめる技能を身につけている。	定期考査 小テスト
思考力 判断力 表現力	地理に関わるさまざまな事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。また、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	定期考査 レポートやワークシートなどの提出物 グループワークや個人ワークへの取り組み状況やその内容 その他
主体的に学習に取り組む態度	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。 地理に関わるさまざまな事象について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	ノートなどの提出物 レポートやワークシートへの取り組み状況やその内容 グループワークや個人ワークへの取り組み状況やその内容

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校2年	地理歴史	世界史探究	S特選 (文系)	5	教科書：詳説世界史 副教材：世界史探究マスター問題集 タペストリー

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>概要；社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>	<p>予習：教科書の精読</p> <p>授業：①【小テスト】前回授業の内容から出題 ②【目標の提示】各項目ごとに理解すべき目標を提示する ③【講義】各項目ごとに目標を意識しながら授業を受ける。板書のみならずメモをとり、理解の深化に努める ④【小テスト】本時の授業内容の習得度をはかる目的で行う</p> <p>復習：①【日常学習】授業内容の簡単な復習 ②【問題集】授業進度、提出期限に合わせて各自で学習を進める</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	第1章 文明の成立と古代文明の特質 第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成	第2章 中央ユーラシアと東アジア世界 第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開 (夏期登校講座：第5、6章 イスラム教の成立と伝播)	第5、7章 ヨーロッパ世界の形成と展開 第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国	第9章 大交易・大交流の時代 第10章 アジアの諸帝国の繁栄 第11章 近世ヨーロッパ世界の動向① (冬季登校講座：第11章②)	第12章 産業革命と環太平洋革命 第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成(途中まで)

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	①授業を通し、現代世界の地域的特色の背景としての歴史の展開を理解することができる。 ②自主的な復習や小テストを通して、知識を習得・定着できる。	定期考査 中テスト
思考力 判断力 表現力	①歴史的事象の意味や意義、特色、事象相互の関連を多面的多角的に考察することができる。 ②自分の考察や構想を論理的・効果的に説明・論述し、他者の主張を踏まえたり取り入れたりしながら議論することができる。 ③調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	定期考査 授業達成度評価(論述) その他
主体的に学習に取り組む態度	①歴史的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けている。	グループワーク 授業の取り組みに対するルーブリック評価 提出物、中テスト その他

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校2年	地理歴史	世界史探究	特選（文系）	5	教科書：詳説世界史 副教材：世界史探究マスター問題集 タペストリー

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>概要；社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>	<p>予習：教科書の精読</p> <p>授業：①【小テスト】前回の授業内容から出題する。 ②【目標の提示】各項目ごとに理解すべき目標を提示する。 ③【講義】各項目ごとに目標を意識しながら授業を受ける。板書のみならず丁寧にメモをとり、理解の深化に努める。 ④【小テスト】本時の授業内容の習得度をはかり、復習の指針にする。 ⑤【目標の達成】授業の冒頭にテーマとして提示された間に回答する。</p> <p>復習：①【日常学習】授業内容の簡単な復習 ②【問題集】授業進度、提出期限に合わせて各自で学習を進める。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	第1章 文明の成立と古代文明の特質 第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成	第2章 中央ユーラシアと東アジア世界の展開 第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開 (夏期登校講座：第5、6章 イスラム教の成立と伝播)	第5、7章 ヨーロッパ世界の形成と展開 第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国	第9章 大交易・大交流の時代 第10章 アジアの諸帝国の繁栄 第11章 近世ヨーロッパ世界の動向① (冬季登校講座：第11章②)	第12章 産業革命と環太平洋革命 第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成(途中まで)

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	①授業を通し、現代世界の地域的特色の背景としての歴史の展開を理解することができる。 ②自主的な復習や小テストを通して、知識を習得・定着できる。	定期考査 中テスト
思考力 判断力 表現力	①歴史的事象の意味や意義、特色、事象相互の関連を多面的多角的に考察することができる。 ②自分の考察や構想を論理的・効果的に説明・論述し、他者の主張を踏まえたり取り入れたりしながら議論することができる。 ③調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	定期考査 授業達成度評価(論述) その他
主体的に学習に取り組む態度	①歴史的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けている。	グループワーク 授業の取り組みに対するルーブリック評価 提出物、中テスト その他

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校2年	地理歴史	日本史探究	S特選 (文系)	5	【教科書】 山川出版『詳説日本史(日探705)』 【副教材】 山川出版『詳説日本史図録 第10版(日探705準拠)』 文英堂『時代と流れて覚える! 日本史用語』 Z会出版『実力をつける日本史100題 [改訂第3版]』 ベネッセ『進研WINSTEP 日本史探究』

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>【教科の概要】 必履修科目である「歴史総合」の学習によって身に付けた資質・能力を基に、我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、歴史的経緯を踏まえて、現代の日本の課題を探究する科目である。</p> <p>【目標】 (1)我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。(2)我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。(3)我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>	<p>【予習】 ①教科書の通読 ②授業冊子へのメモ ③日本史用語の暗記学習</p> <p>【授業】 以下①～④を適宜実施 ①授業内容のポイント整理 ②アクティブラーニング型授業 ③演習問題・論述問題 ④小テスト・確認テスト</p> <p>【復習】 定期考査・模試に向けた復習</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 古墳とヤマト政権 第3章 律令国家の形成 第4章 貴族政治の展開 第5章 院政と武士の躍進 可能な限り先に進みます。	第5章 院政と武士の躍進 第6章 武家政権の成立 第7章 武家社会の成長 可能な限り先に進みます。	第8章 近世の幕開け 古代～中世初期の文化史 第1章～第5章の総復習	第9章 幕藩体制の成立と展開 第10章 幕藩体制の動揺 第11章 近世から近代へ 中世～近世の文化史 可能な限り先に進みます。	第11章 近世から近代へ 第12章 近代国家の成立 第13章 近代国家の展開 第14章 近代の産業と生活 可能な限り先に進みます。

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	①授業の内容を予習・復習し、確認テストにおいて知識を定着することができる。 ②複数回の確認テストの取り組みの成果を、定期考査や模擬試験で発揮できる。	定期考査 小テスト 確認テスト
思考力 判断力 表現力	①歴史的事象の意味や意義、特色、事象相互の関連を多面的多角的に考察することができる。 ②自分の考察や構想を論理的・効果的に説明・論述し、他者の主張を踏まえたり取り入れたりしながら議論することができる。 ③調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	定期考査 その他アクティブラーニング式授業への取り組み
主体的に 学習に 取り組む 態度	①授業内での取り組みに対して、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を身につけている。 ②課題解決に向けた主体的な姿勢だけでなく、他者との積極的な協働学習に対し意欲的に取り組み、協調的な関係を築くことができる。	グループワーク 論点要約・論述演習 定期考査ごとの振り返り

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校2年	地理歴史	日本史探究	特選（文系）	5	【教科書】 山川出版『詳説日本史（日探705）』 【副教材】 山川出版『詳説日本史図録 第10版（日探705準拠）』 文英堂『時代と流れて覚える！日本史用語』 Z会出版『実力をつける日本史100題 [改訂第3版]』 ベネッセ『進研WINSTEP 日本史探究』

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>【教科の概要】 必履修科目である「歴史総合」の学習によって身に付けた資質・能力を基に、我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、歴史的経緯を踏まえて、現代の日本の課題を探究する科目である。</p> <p>【目標】 (1)我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。(2)我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。(3)我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>	<p>【予習】 ①教科書の通読 ②授業冊子へのメモ ③日本史用語の暗記学習</p> <p>【授業】 以下①～④を適宜実施 ①授業内容のポイント整理 ②アクティブラーニング型授業 ③演習問題・論述問題 ④小テスト・確認テスト</p> <p>【復習】 定期考査・模試に向けた復習</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 古墳とヤマト政権 第3章 律令国家の形成 第4章 貴族政治の展開 第5章 院政と武士の躍進 可能な限り先に進みます。	第5章 院政と武士の躍進 第6章 武家政権の成立 第7章 武家社会の成長 可能な限り先に進みます。	第8章 近世の幕開け 古代～中世初期の文化史 第1章～第5章の総復習	第9章 幕藩体制の成立と展開 第10章 幕藩体制の動揺 第11章 近世から近代へ 中世～近世の文化史 可能な限り先に進みます。	第11章 近世から近代へ 第12章 近代国家の成立 第13章 近代国家の展開 第14章 近代の産業と生活 可能な限り先に進みます。

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	①授業の内容を予習・復習し、確認テストにおいて知識を定着することができる。 ②複数回の確認テストの取り組みの成果を、定期考査や模擬試験で発揮できる。	定期考査 小テスト 確認テスト
思考力 判断力 表現力	①歴史的事象の意味や意義、特色、事象相互の関連を多面的多角的に考察することができる。 ②自分の考察や構想を論理的・効果的に説明・論述し、他者の主張を踏まえたり取り入れたりしながら議論することができる。 ③調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	定期考査 その他アクティブラーニング式授業への取り組み
主体的に 学習に 取り組む 態度	①授業内での取り組みに対して、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を身につけている。 ②課題解決に向けた主体的な姿勢だけでなく、他者との積極的な協働学習に対し意欲的に取り組み、協調的な関係を築くことができる。	グループワーク 論点要約・論述演習 定期考査ごとの振り返り

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校2年	数学	数学Ⅱ	S特選(文系) 特選(文系)	4	数学Ⅱ, 数学B(数研出版) サクシード数学Ⅱ+B+C チャート(青)Ⅱ+B+C

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>数学Ⅱ「指数関数と対数関数」「微分法と積分法」を学習する。講習では数学ⅠA・ⅡB・Cの演習を行うことで、総合力を養う。</p> <p>① 指数法則の拡張, 対数の意味と基本的性質を理解し, 相互に関連付け, 日常や社会の事象の問題解決に活用する。</p> <p>② 導関数や定積分などの意味を理解し, 微分と積分の関係に注目してグラフや面積について考察する。</p>	<p>授業用のノートと, 家庭学習(問題集)ノートの2種類を用意する。考査や模試の解き直しも家庭学習ノートにやる。</p> <p>① 「予習→授業→復習」の学習習慣を確立する(数学は特に復習を重視する)。</p> <p>② 1~2週に1回程度, 復習確認テストを行う。テストは必ず解き直しを行う。</p> <p>③ 模試は終了後, 必ず解き直しを行う。</p> <p>④ 家庭学習ノートには答えだけでなく, 導き出す過程(途中式や文章)も書く。</p>

	1学期始め~1学期中間	1学期中間~1学期期末	2学期始め~2学期中間	2学期中間~2学期期末	3学期始め~3学期期末
1年間の授業の進度	(数Ⅱ) 指数関数と対数関数	(数Ⅱ) 微分法と積分法	(数ⅡBC) 演習	(数ⅡBC) 演習	(数ⅡBC) 演習

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	「指数関数と対数関数」「微分法と積分法」における基本的な概念, 原理や法則, 用語や記号などを理解し, 基礎的な知識を身に付けている。	・定期考査(計算など基本問題) ・復習確認テスト(計算など基本問題)
思考力 判断力 表現力	「指数関数と対数関数」の相互関係による日常の事象「微分法と積分法」におけるグラフや面積についての考察など, 計算だけでなく結論を導き出す過程を正確に表現できる。	・定期考査(記述など応用問題) ・復習確認テスト(記述など応用問題)
主体的に学習に取り組む態度	授業の復習を必ず行い, 課題・考査・模試の解き直しを綿密に行うだけでなく, 身に付けた数学的な見方や考え方を積極的かつ発展的に活用することができる。	・提出物など

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校2年	数学	数学Ⅱ	S特選(理系) 特選(理系)	5	数学Ⅱ, 数学Ⅲ(数研出版) サクシード数学Ⅱ+B+C, Ⅲ+C チャート(青)Ⅱ+B+C, Ⅲ+C

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>数学Ⅱ「指数関数と対数関数」「微分法と積分法」、数学Ⅲ「極限」「微分法」「微分法の応用」「積分」を学習する。講習では数学ⅠA・ⅡB・Ⅲの演習を行うことで、総合力を養う。</p> <p>① 導関数や定積分などの意味を理解し、微分と積分の関係に注目してグラフや面積について考察する。</p> <p>② 極限の考え方を通じて微分の理解を深め、増減やグラフの凹凸などからさまざまな事象を数学的に考察する。</p>	<p>授業用のノートと、家庭学習(問題集)ノートの2種類を用意する。考査や模試の解き直しも家庭学習ノートにやる。</p> <p>① 「予習→授業→復習」の学習習慣を確立する(数学は特に復習を重視する)。</p> <p>② 1~2週に1回程度、復習確認テストを行う。テストは必ず解き直しを行う。</p> <p>③ 模試は終了後、必ず解き直しを行う。</p> <p>④ 家庭学習ノートには答えだけでなく、導き出す過程(途中式や文章)も書く。</p>

	1学期始め~1学期中間	1学期中間~1学期期末	2学期始め~2学期中間	2学期中間~2学期期末	3学期始め~3学期期末
1年間の授業の進度	(数Ⅱ) 指数関数と対数関数 (数Ⅱ) 微分法と積分法	(数Ⅱ) 微分法と積分法 (数Ⅲ) 極限	(数Ⅲ) 極限 (数Ⅲ) 微分法	(数Ⅲ) 微分法 (数Ⅲ) 微分法の応用 (数Ⅲ) 積分法	(数Ⅲ) 積分法 (数Ⅲ) 積分法の応用

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	数学Ⅱ「指数関数と対数関数」「微分法と積分法」、数学Ⅲ「極限」「微分法」「微分法の応用」「積分」における基本的な概念、原理や法則、用語や記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。	・定期考査(計算など基本問題) ・復習確認テスト(計算など基本問題)
思考力 判断力 表現力	「指数関数と対数関数」におけるさまざまな性質の証明と活用、「微分法と積分法」におけるグラフや面積についての考察、「極限」「微分法の応用」を用いた事象やその関係についての問題の解決など、計算だけでなく結論を導き出す過程を正確に表現できる。	・定期考査(記述など応用問題) ・復習確認テスト(記述など応用問題)
主体的に学習に取り組む態度	授業の復習を必ず行い、課題・考査・模試の解き直しを綿密に行うだけでなく、身に付けた数学的な見方や考え方を積極的かつ発展的に活用することができる。	・提出物など

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校2年	数学	数学B	S特選(文系) 特選(文系)	2	数学Ⅱ, 数学B, 数学C(数研出版) サクシード数学Ⅱ+B+C チャート(青)Ⅱ+B+C

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>数学Ⅱ「指数関数と対数関数」数学C「平面上のベクトル」「空間のベクトル」を学習する。講習では数学ⅠA・ⅡB・Cの演習を行うことで、総合力を養う。</p> <p>① ベクトルや内積などの基本的性質を理解し、平面図形や空間図形の性質を見出し、多面的に考察する。 ② 確率変数と確率分布について理解し、正規分布を用いた区間推定や仮説検定の方法を身に付ける。</p>	<p>授業用のノートと、家庭学習(問題集)ノートの2種類を用意する。考査や模試の解き直しも家庭学習ノートにやる。</p> <p>① 「予習→授業→復習」の学習習慣を確立する(数学は特に復習を重視する)。 ② 1~2週に1回程度、復習確認テストを行う。テストは必ず解き直しを行う。 ③ 模試は終了後、必ず解き直しを行う。 ④ 家庭学習ノートには答えだけでなく、導き出す過程(途中式や文章)も書く。</p>

	1学期始め~1学期中間	1学期中間~1学期期末	2学期始め~2学期中間	2学期中間~2学期期末	3学期始め~3学期期末
1年間の授業の進度	(数C)空間のベクトル	(数B)統計的な推測	(数学ⅠA)演習	(数学ⅠA)演習	(数学ⅠA)演習

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	「空間のベクトル」「確率分布と統計的な推測」における基本的な概念, 原理や法則, 用語や記号などを理解し, 基礎的な知識を身に付けている。	・定期考査(計算など基本問題) ・復習確認テスト(計算など基本問題)
思考力 判断力 表現力	「確率分布と統計的な推測」における区間推定や仮説検定, 「ベクトル」による平面図形や空間図形における多面的な考察など, 計算だけでなく結論を導き出す過程を正確に表現できる。	・定期考査(記述など応用問題) ・復習確認テスト(記述など応用問題)
主体的に学習に取り組む態度	授業の復習を必ず行い, 課題・考査・模試の解き直しを綿密に行うだけでなく, 身に付けた数学的な見方や考え方を積極的かつ発展的に活用することができる。	・提出物など

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校2年	数学	数学B	S特選(理系) 特選(理系)	3	数学B, 数学C(数研出版) サクシード数学Ⅱ+B+C, Ⅲ+C チャート(青)Ⅱ+B+C, Ⅲ+C

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>数学B「確率分布と統計的な推測」数学C「平面上のベクトル」「空間のベクトル」「式と曲線」を学習する。講習では数学ⅠA・ⅡB・Cの演習を行うことで、総合力を養う。</p> <p>① ベクトルや内積などの基本的性質を理解し、平面図形や空間図形の性質を見出し、多面的に考察する。 ② 確率変数と確率分布について理解し、正規分布を用いた区間推定や仮説検定の方法を身に付ける。 ③ 放物線、楕円、双曲線を相互に関連付けてとらえ、考察する。</p>	<p>授業用のノートと、家庭学習(問題集)ノートの2種類を用意する。考査や模試の解き直しも家庭学習ノートにやる。</p> <p>① 「予習→授業→復習」の学習習慣を確立する(数学は特に復習を重視する)。 ② 1~2週に1回程度、復習確認テストを行う。テストは必ず解き直しを行う。 ③ 模試は終了後、必ず解き直しを行う。 ④ 家庭学習ノートには答えだけでなく、導き出す過程(途中式や文章)も書く。</p>

	1学期始め~1学期中間	1学期中間~1学期期末	2学期始め~2学期中間	2学期中間~2学期期末	3学期始め~3学期期末
1年間の授業の進度	(数C)空間のベクトル (数B)統計的な推測	(数B)統計的な推測 (数Ⅲ)関数	(数Ⅲ)関数 (数C)式と曲線	(数C)式と曲線 (数C)複素数平面	(数C)複素数平面

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	「空間のベクトル」「確率分布と統計的な推測」「式と曲線」「複素数平面」における基本的な概念、原理や法則、用語や記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。	・定期考査(計算など基本問題) ・復習確認テスト(計算など基本問題)
思考力 判断力 表現力	「ベクトル」による平面図形や空間図形における多面的な考察、「確率分布と統計的な推測」における区間推定や仮説検定など、計算だけでなく結論を導き出す過程を正確に表現できる。	・定期考査(記述など応用問題) ・復習確認テスト(記述など応用問題)
主体的に学習に取り組む態度	授業の復習を必ず行い、課題・考査・模試の解き直しを綿密に行うだけでなく、身に付けた数学的な見方や考え方を積極的かつ発展的に活用することができる。	・提出物など

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校2年	理科	物理	S特選(理系) 特選(理系)	4	物理(第一学習社) セミナー物理(第一学習社)

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>物理学とは「自然界の現象に共通した振る舞いを、数式を用いた原理によって明らかにする方法」をいい、金属の電気伝導や大気の流れなどあらゆる現象を解明、予測する手段となる。物理学は、材料開発や気象予測など科学技術をもとに社会で活躍する上で重要な知識であり、また高校生が知能を高めてゆく上で必須の素養でもある。</p> <p>一方でその修得のためには「現象をとらえる考え方、数式の扱い方、実験の進め方」を並行して理解する必要がある、時には非常に難しいことは諸君も周知の通りである。</p> <p>この科目では「高等学校 物理」として、力学、波動、熱力学、電磁気学、現代物理学について学習する。高1の段階と比較して、平面運動などのより一般的な現象の理解や、数式による理由付けの進歩を目指してゆく。これを通して、物理の知識、知能の向上を図ることももちろん、大学から評価される科学的知識を修得することを目標とする。</p>	<p>「授業、演習、課題、試験」を通じて学習を進めてゆく。詳細は次の通りである。</p> <p>1) 授業について 力学、波動、熱力学、電磁気学、現代物理学の5分野について、基礎知識とその例題にを学習する。原則として週3回実施する。また学期に数回の実験、実習を実施する。</p> <p>2) 演習について 授業で得た知識を自力で使いこなしたり、大学入試への準備を進めるために、演習問題や入試問題を扱う。また生徒発表を取り入れる場合もある。概ね週1回実施する。</p> <p>3) 課題、試験について 授業時間が限られるため、課題を通じて自主学習を進める場合がある。また授業、演習の理解を確認するため、小テストなどを実施する。積極的な取り組みに期待する。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	<p><力学分野></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平面運動の速度・加速度 2. 放物運動 3. 剛体に働く力のつり合い 4. 重心 5. 運動量と力積 6. 運動量保存則 	<ol style="list-style-type: none"> 7. 反発係数 8. 等速円運動 9. 慣性力 10. 万有引力、ケプラーの法則 <p><熱力学分野></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 気体の法則、状態方程式 2. 気体分子運動論 3. 基本法則、熱過程 	<p><波動分野></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 単振動 2. ばね振り子、単振り子 <p><波動分野></p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 正弦波 4. 波の干渉 5. ドップラー効果 6. 光の性質、レンズ 	<p><波動分野></p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 光の干渉 <p><電磁気分野></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 電位、電場 2. コンデンサー、誘電率 3. 直流回路 4. 電気伝導と過渡現象 5. 電流から受ける力 	<p><電磁気分野></p> <ol style="list-style-type: none"> 6. ローレンツ力 7. 磁気 8. 電磁誘導、コイルの性質 9. 交流回路 10. 共振回路と電磁波

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	観察、実験や課題研究などを通して物理的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けていること。	◇定期考査の素点の一部 ◇小テスト・確認テストの点数 ◇実験・観察後の提出課題の評価
思考力判断力表現力	物理的な事物・現象の中に問題を見出し、観察実験などを行うとともに、事象を実証的論理的に考えたり、分析的統一的に考察したりして、事実に基づいて判断できること。	◇定期考査の素点の一部 ◇小テスト・確認テストの点数 ◇実験・観察後の提出課題の評価
主体的に学習に取り組む態度	物理的な事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けていること。	◇小テスト・確認テストの点数 ◇実験・観察後の提出課題の評価

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校2年	理科	化学基礎	S特選（理系） 特選（理系）	4	高等学校 化学基礎、化学（数研出版） セミナー化学基礎+化学（第一学習社）

教科・科目の概要と目標

学習方法と流れ

<p>【概要】化学基礎および化学を系統的に学習していきます。化学は、物質を①構造②性質③反応性の3観点から理解することで、自然界の原理・法則を見出す学問です。それは、地球環境保護と現代社会発展への貢献につながります。理系選択者としての将来を見据えながら、学習をすすめていきましょう。</p> <p>【目標】</p> <p>①実験や観察を通して、科学に関する知識や理解を深め、科学的な思考や理解力を養う。</p> <p>②将来の生活場面において、化学的な知識や理論が活用できるようにする。</p> <p>③大学入学共通テストや大学入学試験に耐えうる学力を定着させる。</p>	<p>1) 基礎的な内容から発展的なものまで、化学の持つ法則性、物質の持つ共通性・特殊性を学習します。</p> <p>問題演習・実験を通して単元内容を考察しながら、実験技能の向上を図ります。また、大学入試において題材にされやすい実験も取り入れ、科学的な理解を深めるだけでなく、将来の入試に対応できる力も養成します。</p> <p>2) 定期考査によって理解度を確認、さらなる定着を図ります。さらに、模試を活用して既習内容を継続的に振り返り、基礎学力を維持することで、より発展的な学習につなげます。</p>
--	--

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	<p>【化学基礎】 総復習</p> <p><第1編 物質の状態></p> <p>第1章 粒子の結合と結晶の構造</p> <p>第2章 物質の三態と状態変化</p>	<p><第1編 物質の状態></p> <p>第3章 気体</p> <p>第4章 溶液</p> <p><第2編 物質の変化></p> <p>第1章 化学変化とエネルギー</p>	<p><第2編 物質の変化></p> <p>第2章 電池と電気分解</p> <p>第3章 化学反応の速さとしくみ</p>	<p><第2編 物質の変化></p> <p>第4章 化学平衡</p> <p><第3編 無機化学></p> <p>第1章 非金属元素</p>	<p><第3編 無機化学></p> <p>第2章 金属元素（Ⅰ）</p> <p>第3章 金属元素（Ⅱ）</p>

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	観察、実験などを通して化学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているかどうか。	◇定期考査の素点の一部 ◇小テスト・確認テストの点数 ◇実験・観察後の提出課題の評価
思考力判断力表現力	化学的な事物・現象の中に問題を見だし、観察、実験などを行うとともに、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして、問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断することができるか。また、観察、実験の過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現することができるかどうか。	◇定期考査の素点の一部 ◇小テスト・確認テストの点数 ◇実験・観察後の提出課題の評価
主体的に学習に取り組む態度	化学的な事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。	◇小テスト・確認テストの点数 ◇実験・観察後の提出課題の評価

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校2年	理科	生物	S特選（理系） 特選（理系）	3	高等学校 生物（第一学習社） 生物図説・セミナー生物（第一学習社）

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>【概要】 生物の体を構成する細胞やタンパク質、その他の生体物質の機能や構造を学び、それらの機能であるセントラルドグマの過程、そしてこれらが強調して働く発生や遺伝、さらにはよりマクロな視点として生態学や進化の歴史を学びます。</p> <p>【目標】 2年生においては、ミクロな視点である生体物質、遺伝現象と発現、そして生物の発生について学びます。これらに対して包括的な知識体系を形成するとともに、大学入学共通テストを解答するに足る思考力を身につけることを目的とします。</p>	<p>① 基礎的な内容から発展的なものまで、科学の持つ法則性、物質の持つ共通性・特殊性を学習します。</p> <p>② 問題演習・実験を通して単元内容を考察しながら、実験技能の向上を図ります。また、大学入試において題材にされやすい実験も取り入れ、科学的な理解を深めるだけでなく、将来の入試に対応できる力も養成します。</p> <p>③ 学習内容、時期によっては、授業動画（オンデマンド教材）も活用します。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	<細胞と分子> ・生体物質と細胞 ・細胞膜を介した物質の移動 ・生命現象とタンパク質	<代謝> ・同化 ・異化	<遺伝情報の発現> ・遺伝情報とその発現 ・遺伝子の発現調節 ・バイオテクノロジー	<生殖と発生> ・有性生殖と無性生殖 ・動物の発生 ・植物の発生	<生物の環境応答> ・植物の環境応答 ・動物の環境応答

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	◇自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ◇観察、実験の基本操作を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現する。	◇定期考査の素点の一部 ◇小テスト・確認テストの点数 ◇実験・観察後の提出課題の評価
思考力判断力表現力	◇自然の事物・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察、実験などを行うとともに、事象を実証、論理的に考えたり、分析的、総合的に考察したりして問題を解決する。	◇定期考査の素点の一部 ◇小テスト・確認テストの点数 ◇実験・観察後の提出課題の評価
主体的に学習に取り組む態度	◇自然の事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、事象を人間生活とのかかわりで見ようとする。	◇小テスト・確認テストの点数 ◇実験・観察後の提出課題の評価

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校2年	理科	地学基礎	S特選(文系) 特選(文系)	2	地学基礎(第一学習社) セミナー地学基礎(第一学習社) スクエア最新図説地学(第一学習社)

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>【概要】 「地学基礎」は、中学校で学習した内容を基礎として、日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、観察、実験などを通して、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う科目です。</p> <p>【目標】 ① 地球や地球を取り巻く環境に関する基本的な概念や原理・法則を理解する。 ② 地球の自然環境と日常生活や社会とのかかわりを考えることができるようにする。</p>	<p>① 中学で学んだ知識を再確認します。 その基本的知識をもとに地球上で起こる諸現象をより科学的にとらえ、より高度な知識を学びます。</p> <p>② 問題演習・観察を通して単元内容を考察しながら、観察等の技能の向上を図ります。</p> <p>③ 定期考査によって理解度を確認、さらなる定着を図ります。 さらに、模試を活用して既習内容を継続的に振り返り、基礎学力を維持することで、より発展的な学習につなげます。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	◆地球のすがた	◆地球の活動	◆地球と生物の変遷 ◆地層と化石	◆大気と海洋 ◆地球の環境	◆宇宙と地球

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	学習した基本的な概念や原理・方法が正しく理解できたか。	1、各学期の成績評価は、定期考査のうち、知識・技能を問う問題の点数を評価する。 2、学年末の成績評価は、各学期の評価をもとにする。 3、知識を問う小テストなどで評価することがある。
思考力 判断力 表現力	課題を遂行するにあたって、科学的・理論的に思考し、判断しているか。 推論、実験、検証の過程で科学的な考え方、方法を用いたか。	1、各学期の成績評価は、定期考査のうち、思考力・判断力・表現力を問う問題の点数を評価する。 2、学年末の成績評価は、各学期の評価をもとにする。 3、提出物の期限などで評価することがある。
主体的に 学習に 取り組む 態度	自然現象に対して興味・関心を示しているか。 意欲的に課題を追及する態度を身につけているか。	1、各学期の成績評価は、授業プリント・実験レポート・宿題などを評価する。 2、学年末の成績評価は、各学期の評価をもとにする。

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校2年	理科	化学基礎	S特選(文系)	2	新編化学基礎(数研出版) 標準セミナー化学基礎(第一学習社)

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>【概要】 「高2文系化学基礎」は、中学3年次で先取りして学習した内容をトレースしながら振り返り、大学入試、特に大学入学共通テストに必要な知識および思考力を補填、強化する目的で実施します。</p> <p>【目標】 ① 中3化学基礎で示された知識を再履修し、定着を図ります。 ② 大学入学共通テストで問われる形式に慣れ、解答技能を高めます。</p>	<p>① すでに学んだ知識を再確認します。その基本的知識をもとに地球上で起こる諸現象をより科学的にとらえ、より高度な知識を学びます。</p> <p>② 問題演習・実験等を通して単元内容を考察しながら、実験等の技能の向上を図ります。</p> <p>③ 定期考査によって理解度を確認、さらなる定着を図ります。さらに、模試を活用して既習内容を継続的に振り返り、基礎学力を維持することで、より発展的な学習につなげます。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	<p>◆物質の構成(物質の分類、成分・物質の三態と熱運動)</p> <p>◆物質の構成粒子(原子とその構造・イオン・周期表)</p>	<p>◆粒子の結合(イオン、共有、金属の各結合・分子間力)</p> <p>◆物質と化学反応式(原子量・分子量・式量)</p>	<p>◆物質と化学反応式(物質・化学反応式)</p> <p>◆酸と塩基の反応(酸と塩基・水の電離と水溶液のpH)</p>	<p>◆酸と塩基の反応(中和反応・塩)</p> <p>◆酸化還元反応(酸化と還元)</p>	<p>◆酸化還元反応(酸化剤と還元剤・金属のイオン化傾向・電池・電気分解・金属の精錬)</p>

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	学習した基本的な概念や原理・方法が正しく理解できたか。	<p>1. 各学期の成績評価は、定期考査のうち、知識・技能を問う問題の点数を評価する。</p> <p>2. 学年末の成績評価は、各学期の評価をもとにする。</p> <p>3. 知識を問う小テストなどで評価することがある。</p>
思考力判断力表現力	課題を遂行するにあたって、科学的・理論的に思考し、判断しているか。推論、実験、検証の過程で科学的な考え方、方法を用いたか。	<p>1. 各学期の成績評価は、定期考査のうち、思考力・判断力・表現力を問う問題の点数を評価する。</p> <p>2. 学年末の成績評価は、各学期の評価をもとにする。</p> <p>3. 提出物の期限、内容などで評価することがある。</p>
主体的に学習に取り組む態度	自然現象に対して興味・関心を示しているか。意欲的に課題を追及する態度を身につけているか。	<p>1. 各学期の成績評価は、授業プリント・実験レポート・課題などを評価する。</p> <p>2. 学年末の成績評価は、各学期の評価をもとにする。</p>

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校2年	保健体育	体育	共通	2	

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動技能・体力の向上、健康の増進、安全に対する知識・判断力を習得する。 2. 学校内はもちろん、学校以外の生活の場面でも、健康で明るい生活を送ることができるような身体作りをする。 3. 中学で修得した個人技能に加え、連携プレーなどで協力の精神を養う。また、スポーツ全般の基礎となる陸上競技を取り入れ、全身の持久力、瞬発力を高め筋力の増強に努める。 4. 体育祭を通し、集団の中で果たすべき責任を全うする能力を身に付ける。 5. 体育行事（主にTRF）を通して困難を前にたじろがない強い心を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育については、所定の場所（体育館・グラウンド・地下体育館）で実施する。 ※各種事情により取り扱う運動領域を変更する場合あり。 ・3学期から来年度の体育祭に向けての練習(集団行動・ダンス)を中心に行う

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	集団行動 体育祭練習	体育祭練習 球技Ⅰ 体カテスト	球技Ⅱ	球技Ⅱ 持久走	ダンス、集団行動 持久走

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。 ・自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の技能を高めている。また、自己の生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。 	各学期末に所定の場所（体育館・グラウンド・地下体育館）で行う実技テストで到達度を確認する他、授業への取り組み、出席状況、見学状況、課題提出状況などの資料を基に総合的に判断する
思考力 判断力 表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。 	各学期末に所定の場所（体育館・グラウンド・地下体育館）で行う実技テストで到達度を確認する他、授業への取り組み、出席状況、見学状況、課題提出状況などの資料を基に総合的に判断する
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して自ら運動をしようとする。 	授業（単元）の目標到達における自己評価・他者評価の他、授業への取り組み、出席状況、見学状況、課題提出状況などの資料を基に総合的に判断する

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校2年	保健体育	保健	共通	1	大修館書店「新高等保健体育」

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>1. 多様化するライフスタイルの中で、生涯を通じいかに健康を維持し安全に過ごすことができるかを学ぶ。</p> <p>2. 個人及び社会生活における健康・安全についての理解を深める。</p> <p>3. 生活習慣病を理解し、より健康的なライフスタイルを身につける。</p>	<p>①本時の内容確認 → 講義・演習 → 本時のまとめ</p> <p>②授業には、教科書・ノート・配布プリントを用意しておくこと。</p> <p>③iPadをグループワーク・課題提出で使用する場合がある。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	[1]思春期と健康 [2]性意識の変化と性行動の選択 [3]結婚生活と健康 [4]妊娠・出産と健康	[5]家族計画 [6]加齢と健康 [7]高齢社会に対応した取り組み	[8]働くことと健康 [9]労働災害の防止 [10]働く人の健康づくり [1]大気汚染と健康 [2]水質汚濁、土壌汚染と健康	[3]健康被害を防ぐための環境対策 [4]環境衛生に関わる活動 [5]食品の安全性と健康 [6]食品の安全性を確保する取り組み [7]保健制度とその活用	[8]医療制度とその活用 [9]医薬品の制度とその活用 [10]様々な保健活動や対策 [11]誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。	・定期考査
思考力 判断力 表現力	健康についての自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	・定期考査 ・記述を中心とした授業内課題、グループ発表、体験的活動などの取り組み状況を基に判断する
主体的に学習に取り組む態度	個人生活や社会生活における健康・安全に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	・ワークシートへの取り組み状況や内容 ・グループワーク、個人ワークへの取り組み状況や内容などの資料を基に判断する

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校2年	芸術	音楽Ⅰ	共通	1	高校生の音楽Ⅰ・Ⅱ (教育芸術社)

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>本校芸術科は、芸術の諸活動を通して感性を高め、創造的に表現する力を育成するとともに、主体的に芸術活動に取り組む態度を育て、豊かな情操を養うことを目指す。</p> <p>音楽では自己のなかにある「自分ならではの感じ方、表現」を見出し、それに自信をもって磨いてゆく姿勢を育む。日々の生活の中でも教科で学んだ表現力をいかす。</p> <p>歌唱 他者と発声を揃えて重唱する 器楽 奏法の基礎を踏まえて、自己表現する 鑑賞 音楽の歴史を踏まえて鑑賞する 楽典 様々な楽譜を読み取り、表現できるようになる 創作 曲作りのルールの中で、自分を表現する</p>	<p>音楽室にて行います。 授業の始めに鑑賞を行い、その後各単元の学習に入ります。 実技は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模範唱、模範奏を聴く ・自分の力で挑戦する ・仕組みを学ぶ ・表現を考える <p>の流れで展開し、音楽的な自立を目指します。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進捗	重唱:アカペラでの重唱 ジャンルを踏まえた重唱	楽典:楽譜の読み取り	ギター:弾き歌い 独唱:フランス語の歌曲 「愛の讃歌」	ギター:コード奏 独唱:英語の歌 「Hey Jude」	独奏発表
	鑑賞:西洋音楽史	鑑賞:西洋音楽史	鑑賞:西洋音楽史	鑑賞:西洋音楽史	鑑賞:西洋音楽史

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	自己の感性を働かせて、楽曲の文化・歴史的背景や音楽構造と曲想との関わりまた、その多様性について音楽活動を通して理解している。 自己の感性を働かせて音楽表現を創意工夫したり、自分の表現意図を音楽で表現したりするために必要な歌唱の技能・鑑賞の方法を身に付け、創造的に表している。	課題・内容により、「各課題終了後行う実技試験」・「提出物による理解度」をもとに総合的に評価する。
思考力 判断力 表現力	自己の感性を働かせて表現の意図を持ち、表現方法を工夫している。 自己の感性を働かせて楽曲や演奏を解釈できる。 自己の生活において音楽の寄与するもの等も視野に入れながら、音楽のよさや美しさを創造的に味わって聴いている。	課題・内容により、「各課題終了後行う実技試験」・「提出物による解釈表現の内容」・「鑑賞課題」終了後提出の「感想」をもとに総合的に評価する。
主体的に 学習に 取り組む 態度	自己の感性を総動員して音楽活動の喜びを味わっている。 音や音楽を自己の生活や社会にも生かそうという姿勢で、主体的に歌唱、鑑賞の学習に取り組んでいる。	「各回授業内容に対する熱意・態度」・「振り返り」の仕方とその発展度・「課題の提出状況及び内容」・「出席状況」から総合的に判断する。

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校2年	芸術	美術I	共通	1	美術I(光村図書)

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>本校芸術科は、芸術の諸活動を通して感性を高め、創造的に表現する力を育成するとともに、主体的に芸術活動に取り組む態度を育て、豊かな情操を養うことを目指す。</p> <p>美術では「技術」の習得とともに「表現」の深化も目指す。</p> <p>●技術 平面 絵画・デザイン・版画など 立体 彫塑・木工・金工・クラフトなど 鑑賞 海外、日本、現在、過去、友人と古今東西の作品、できるだけ多くの制作方法や素材に触れて、制作・鑑賞を行う。</p> <p>●表現 技術での制作や鑑賞を通して、「表現したいこと」に向かって自分がどう取り組んだか、また人はどう取り組んでいるのかを知り、日常生活や他の学習の中でいかす。</p>	<p>1：題材の設定の趣旨説明 2：下描き、下絵の作成 3：制作の決定 4：彩色や質感の施し 5：完成度の追求</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進捗	<ul style="list-style-type: none"> ●オリエンテーション ●工芸 ・趣旨説明 ・アイデアスケッチ ・下描き 	<ul style="list-style-type: none"> ●工芸 ・制作 	<ul style="list-style-type: none"> ●デッサン ・趣旨説明 ・アイデアスケッチ 	<ul style="list-style-type: none"> ●油彩画 ・下描き ・制作 	<ul style="list-style-type: none"> ●油彩画 ・制作 ・鑑賞

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	<p>社会性のある、より専門的な知識・技能を培っている。</p> <p>創造的な表現をするために材料・用具を生かして表現する技能を身に付けている。</p> <p>美術的な知識を活かしながら美術作品を鑑賞する。</p>	<p>作品及び提出物や、日々の授業に取り組む姿勢を、以下の項目を中心に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・狙い通りの描写ができてきているか。 ・材料、用具を生かす力があるか。
思考力判断力表現力	<p>日常の中で感性を働かせて美術のよさや美しさを感じ取り、豊かに発想し創造的に表現を工夫する。</p> <p>作品から感じ取ったイメージを具体的な言葉で表現する。</p>	<p>作品及び提出物を、以下の項目を中心に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発想力、構想力があるか。 ・意図した色を作り出すことができてきているか。 ・アイデアやイメージを表現できてきているか。
主体的に学習に取り組む態度	<p>美術を愛好し、表現の主題や形式などに幅広く関心をもち、その喜びを味わおうとする。</p>	<p>作品及び提出物や、日々の授業に取り組む姿勢を、以下の項目を中心に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主題に興味を持って、意欲的に取り組んでいるか。 ・主題を最後まで作り上げる姿勢が見られるか。 ・提出期限が守られているか。

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校2年	芸術	書道Ⅰ	共通	1	書道Ⅰ・書道Ⅱ(教育出版)

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>本校芸術科は、芸術の諸活動を通して感性を高め、創造的に表現する力を育成するとともに、主体的に芸術活動に取り組む態度を育て、豊かな情操を養うことを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 書道Ⅰは楷書、隷書を中心に、行書、仮名、篆書、篆刻の各書体を学び、基本技法、表現力、創造力、集中力を養う。 書の楽しさ、美しさを体験し、表現力、創造力の向上を目指す。 楷書、行書、隷書、仮名の技法を習得し、目的に応じた表現を選ぶ。 文字の美しさ、点や線、形、リズム、流れの美しさを理解し、表現する。 古典を学習し、伝統的技法、芸術的創造力を養う。 日々の生活の中でも表現力をいかす 	<ol style="list-style-type: none"> 書道Ⅰの学習は、単元内容の解説、鑑賞、学習、実習、練習、制作、評価の方法で行います。 授業は、解説、鑑賞、学習、実習、臨書、創作、清書、提出、評価の流れで展開します。 授業には、教科書、書道用具一式(紙・筆・硯・墨・下敷き・鉛筆)を用意して下さい。

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション 書の芸術性と歴史 書の美とは 唐代の楷書「孔子廟堂碑・九成宮禮泉銘」 	<ol style="list-style-type: none"> 唐代の楷書「建中告身帖・雁塔聖教序」 唐代の楷書「牛橛造像記・鄭義下碑」 書道甲子園出品作品制作(小字数書創作) 	<ol style="list-style-type: none"> 藍桐祭作品制作 隷書「曹全碑」 	<ol style="list-style-type: none"> 篆刻 名印・遊印制作 行書「蘭亭序」「祭姪稿」 	卒業制作 2年間の総まとめ

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	日常生活における書の効用や日本及び中国等の書の文化などを理解し、書の実用性を確認しながら、美しさを創造的に味わう。 書写能力を高め、用具・用材を生かして表現する技能を身に付ける。	課題の提出物の仕上がりにより評価します。各課題の観点毎に古典に基づいた臨書の力を基準にします。
思考力 判断力 表現力	感性を働かせて書の美しさを感じ取り、自らの意図に基づき構想し、創造的に表現を工夫する。	発想力や作品構成力のもと、自らの仕上がり具合を判断する力を評価します。課題の観点毎に墨色や流れを重視します。
主体的に学習に取り組む態度	書を愛好し、書の文化に関心をもち、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。	授業への関心意欲、およびオンライン、オンデマンドにおける課題の提出状況などを評価します。 授業準備や教室整備なども含む。

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校2年	英語	英語コミュニケーションII	S特選 (文系) (理系)	JET:3単位 (NET:1単位)	CROWN English Communication II Smart Reader Standard / Clues to Reading 共通テスト Reading / LEAP / be Smart II

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>東大入試対策と新学習指導要領で求められる高度なコミュニケーション力の育成。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文構造把握と英文和訳に特化し難易度の高い文章の読解力を養成する。読解で差がつくポイントを解説し、東大和訳の過去問など類題を用いて定着させる。 東大英語に向けて要約・文挿入・リスニング・和訳・小説に取り組む。要約とリスニング問題は1学期から行い、小説問題は夏以降取り組む。 <p>*NETクラス ネイティブ教師によるCLILの要素を取り入れたAll English授業。 日本人クラスで学んだ英語力を活かし「英文読解→分析・評価→エッセイやプレゼンテーションによる発表」の流れで英語で考え英語で表現する力を養成す</p>	<p>『Clues to Reading』(メイン) 『Smart Reader Standard』(サブ)</p> <p>[予習] 教科書の本文を和訳しロイロに提出 [授業] 解説を聞き文構造の把握と和訳の仕方及び読解の解法を学ぶ。 [復習] 東大過去問やSmart Readerなどを用いて類題演習を行う。</p> <p>『LEAP』確認テストを通して基本語彙の定着を図る。 『CROWN English Communication II』はリスニング・速読教材として使用。 NETの授業で共通の話題が扱えるように連携する。 英検…スタサプEnglishを用いて準1級を目指す。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	Clues to Reading 1.2. 基本構造を見抜く 3.4. thatの用法を見分ける 東大要約・リスニング CROWN II L. 1～2 SR. L. 21～22, 26～27, 12～	Clues to Reading 5.6. 関係代名詞は代名詞 7.8. 意味上の主語・分詞構文 東大要約・リスニング CROWN II L. 3～4 SR. L. 1～11, 13～14, 28～35	Clues to Reading 9.10. 比較対象を見抜く 11. 名詞構文を見抜く 東大小説・文挿入 CROWN II L. 5～6 SR. L. 19, 25	Clues to Reading 12.13. 倒置を見抜く 14.15. 省略を見抜く その他 東大小説・文挿入 CROWN II L. 7～8 SR. L. 23, 24	Clues to Reading 総復習 東大総合演習 CROWN II L. 9～10

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	高度な論説文や物語文に関して、論理展開・概要および詳細を理解するために必要な技能や語彙・文法を習得し、文構造的に整合性が取れており、文脈を踏まえた自然な和訳ができ、求められている要素を適切に取り入れている記述力が身につけているかを評価する。	定期考査の成績による
思考力判断力表現力	教科書と同じテーマの初見の文章において、授業で習った語彙や言い換え・因果関係・対比などの論理展開やさまざまな解法を応用して、根拠を明確にして適切に判断しながら解答する力を測る。	定期考査の成績による
主体的に学習に取り組む態度	以下のCLIL形式の授業形式に則って、積極的に「英語」で情報を得て、話し合い、表現する姿勢を見る。加えて多角的に深く分析・評価できていればさらに評価する。 ・収集(Gather)…テーマを調査・分析し、主論点を特定する。 ・整理(Process)…アイデアを整理し、構成を整え、明確さと一貫性を持たせる。 ・発信(Output)…エッセイを書く。	授業内小テスト・課題・ディスカッション貢献度、またアクティビティ・プレゼンテーション・エッセイ・レポートなど

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校2年	英語	英語コミュニケーションII	特選 (文系) (理系)	JET:3単位 (NET:1単位)	CROWN English Communication II Smart Reader Standard / Clues to Reading 共通テスト Reading / LEAP / be Smart II

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>大学入試対策と新学習指導要領で求められる高度なコミュニケーション力の育成。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文構造把握と英文和訳に特化し難易度の高い文章の読解力を養成する。 読解で差がつくポイントを解説し、類題を用いて定着させる。 ・Smart ReaderやClues to Reading, CROWN English Communication IIを用いて総合的な英語力を育成する。 <p>*NETクラス ネイティブ教師によるCLILの要素を取り入れたAll English授業。 日本人クラスで学んだ英語力を活かし「英文読解→分析・評価→エッセイやプレゼンテーションによる発表」の流れで英語で考え英語で表現する力を養成す</p>	<p>『Smart Reader Standard』(メイン) 『Clues to Reading』</p> <p>[予習] 教科書の本文を和訳する。問題を解く。 [授業] 解説を聞き、正確な読み方を学ぶ。 [復習] 音読練習を積み重ねることで、正確な読み方を自動化し、速読力へとつなげる。</p> <p>『LEAP』確認テストを通して基本語彙の定着を図る。 『CROWN English Communication II』はリスニング・速読教材として使用。 NETの授業で共通の話題が扱えるように連携する。 英検…スタサプEnglishを用いて準1級を目指す。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	CROWN II Lesson 1～2 抜粋 Smart Reader Standard Lesson 1～6 Clues L.5.6. 関係代名詞は代名詞	CROWN II Lesson 3～4 抜粋 Smart Reader Standard Lesson 7～12 Clues L.7. 意味上の主語を見抜く	CROWN II Lesson 5～6 抜粋 Smart Reader Standard Lesson 13～19 Clues L.3.4. 注意すべきit/that見分け	CROWN II Lesson 7～8 抜粋 Smart Reader Standard Lesson 20～27 Clues L. 9.10 / 1.2 比較対象/基本構造を見抜く	CROWN II Lesson 9～10 抜粋 Smart Reader Standard Lesson 28～35 Clues L. 8. 文末の分詞構文を見抜く

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	高度な論説文や物語文に関して、論理展開・概要および詳細を理解するために必要な技能や語彙・文法を習得し、文構造的に整合性が取れており、文脈を踏まえた自然な和訳ができ、求められている要素を適切に取り入れている記述力が身につけているかを評価する。	定期考査の成績による
思考力判断力表現力	教科書と同じテーマの初見の文章において、授業で習った語彙や言い換え・因果関係・対比などの論理展開やさまざまな解法を応用して、根拠を明確にして適切に判断しながら解答する力を測る。	定期考査の成績による
主体的に学習に取り組む態度	以下のCLIL形式の授業形式に則って、積極的に「英語」で情報を得て、話し合い、表現する姿勢を見る。加えて多角的に深く分析・評価できていればさらに評価する。 ・収集(Gather)…テーマを調査・分析し、主論点を特定する。 ・整理(Process)…アイデアを整理し、構成を整え、明確さと一貫性を持たせる。 ・発信(Output)…エッセイを書く。	授業内小テスト・課題・ディスカッション貢献度、またアクティビティ・プレゼンテーション・エッセイ・レポートなど

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校2年	英語	論理・表現Ⅱ	S特選 (文系) (理系)	2	Write to the Point Power Stage Power Stage Training Book <Advanced>

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>グローバル社会で求められる英語力を見据えつつ、高度な文法問題に対応できる演習力を高めていき、最終的にはエッセイ・ライティングや東大英作文に対応できる力がつくように訓練していく。</p> <p>*NETクラス(英語コミュニケーション)への接続</p> <p>ネイティブ教師によるCLILの要素を取り入れたAll English授業につながる授業 ・論理表現で学んだ作文力を活かし、「理解(英文読解)→分析・評価(情報処理)→創造(エッセイやプレゼンテーションやディスカッション)」のサイクルを通して、SDGsなど教科横断的なトピックや時事的な題材を用いて理論的なエッセイ・ライティングや東大をはじめとする難関大学入試の英作文が書けることを目標に、英語で考え英語で表現する力を養成する。</p>	<p>『Write to the Point』和文英訳</p> <p>[予習] 自分の力で問題を解いて、weblio studyで添削してロイロに提出する。 [授業] 他生徒の添削結果や模範解答を比較しながら、適切な英文法と語彙を確認する。 [復習] より汎用性が高く適切な英語表現・英文を覚える。</p> <p>『Training Book <Advanced>』</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の最初に英文法の入試演習(四択・正誤・整序など)を行う。 <p>『Power Stage』</p> <ul style="list-style-type: none"> 自習用の教材。朝テスト・定期考査で定期的に出題する。

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	Write to the Point 1.～3. 主語の決定・目的の表現 P.S.Training Book 第1～3回	Write to the Point 4.～7. 目的の表現・時制・動詞の語法 P.S.Training Book 第4～6回	Write to the Point 8.～10. 関係代名詞・関係副詞 時間の表現・数字の表現 P.S.Training Book 第7～10回	Write to the Point 11.～14. 仮定条件・比較 / 基本・応用 P.S.Training Book 第11～14回	Write to the Point 15.～18. 譲歩の表現・重要表現・ Aは～だ P.S.Training Book 第15～17回

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	英文法と英作文を中心に評価する。英文法においては昨年度までに習得した知識・理解・運用力を定着・発展させているかを問い、英作文においては、まずは基本的な文構造と表現を適切に組み合わせることができるところから始まり、まとまった文章を書くためのディスコースマーカーや論理展開の習得ができているかを問う。	定期考査及びアクティビティ等
思考力判断力表現力	習得した知識・技能を、初見の問題でどれくらい正確に発揮できるかを問う。文法に関しては4択問題・正誤問題・整序問題を、英作文は基本的な和文英訳と自由英作文に対応できているかを評価する。	定期考査及びアクティビティ等
主体的に学習に取り組む態度	入試問題の演習力伸長を中心に「聞く」「読む」「話す」「書く」などコミュニケーション全般における技能そのものを磨く姿勢を持ち、総合的な英語力を高めるために強い意志を持って学習に取り組み、進路実現に向けて日常の学習習慣を築くことができているかを見る。	小テスト、提出物など

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校2年	英語	論理・表現Ⅱ	特選 (文系) (理系)	2	Write to the Point Power Stage Power Stage Training Book <Advanced>

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>グローバル社会で求められる英語力を見据えつつ、高度な文法問題とエッセイ・ライティングまたは難関大学英作文に対応できる力がつくように訓練していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 和文英訳を中心に授業を行う。 頻出表現や注意が必要な文法を項目ごとに整理して解説する。 類題を使いながら演習を行い、定着を図る。 weblio study(自動添削アプリ)を活用し生徒が添削を行い、結果を共有する。 ⇒主体的で対話的な深い学習を促す。 高1時にコーパスクランやVintageで受験英文法において一通り学習済み。 ⇒Power Stage Training Bookを用いて演習・解説を行い実践力を養う。 	<p>『Write to the Point』和文英訳 Exercise A 中心</p> <p>[予習] 自分の力で問題を解いて、weblio studyで添削してロイロに提出する。 [授業] 他生徒の添削結果や模範解答を比較しながら適切な英文法と語彙を確認する。 [復習] より汎用性が高く適切な英語表現・英文を覚える。</p> <p>『Training Book <Advanced>』</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の最初に英文法の入試演習(四択・正誤・整序など)を行う。 <p>『Power Stage』</p> <ul style="list-style-type: none"> 自習用の教材。朝テスト・定期考査で定期的に出題する。

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	Write to the Point 1.～3. 主語の決定・目的の表現 P.S.Training Book 第1～3回	Write to the Point 4.～7. 目的の表現・時制・動詞の語法 P.S.Training Book 第4～6回	Write to the Point 8.～10. 関係代名詞・関係副詞 時間の表現・数字の表現 P.S.Training Book 第7～10回	Write to the Point 11.～14. 仮定条件・比較 / 基本・応用 P.S.Training Book 第11～14回	Write to the Point 15.～18. 譲歩の表現・重要表現・ Aは～だ P.S.Training Book 第15～17回

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	英文法と英作文を中心に評価する。英文法においては昨年度までに習得した知識・理解・運用力を定着・発展させているかを問い、英作文においては、まずは基本的な文構造と表現を適切に組み合わせることができるところから始まり、まとまった文章を書くためのディスコースマーカーや論理展開の習得ができているかを問う。	定期考査及びアクティビティ等
思考力判断力表現力	習得した知識・技能を、初見の問題でどれくらい正確に発揮できるかを問う。文法に関しては4択問題・正誤問題・整序問題を、英作文は基本的な和文英訳と自由英作文に対応できているかを評価する。	定期考査及びアクティビティ等
主体的に学習に取り組む態度	以下のCLIL形式の授業形式に則って、積極的に「英語」で情報を得て、話し合い、表現する姿勢を見る。加えて多角的に深く分析・評価できていればさらに評価する。 ・収集(Gather)…テーマを調査・分析し、主論点を特定する。 ・整理(Process)…アイデアを整理し、構成を整え、明確さと一貫性を持たせる。 ・発信(Output)…エッセイを書く。	授業内小テスト・課題・ディスカッション貢献度、またアクティビティ・プレゼンテーション・エッセイ・レポートなど

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校2年	英語	論理・表現Ⅱ	S特選・特選 (文系) (理系)	1	NET teachers will produce all materials for the course.

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<ul style="list-style-type: none"> ● Enhance verbal and non-verbal communication skills ● Encourage critical thinking and articulate expression of ideas. ● Develop the ability to listen actively and respond thoughtfully to peers. ● Prepare students for university exam and job interview scenarios. ● Introduce the basics of essay structure. ● Emphasize clarity, coherence, and organization in written expression. ● Prepare students for essay writing tasks in university exams. 	<ul style="list-style-type: none"> ● Facilitate group discussions to encourage students to express their opinions, listen actively, and respond effectively to their peers. ● Conduct role-playing activities to simulate real-life scenarios, such as job interviews or group discussions, helping students practice communication skills in practical contexts. ● Conduct mock interviews to simulate university entrance exams or job interviews, and provide constructive feedback on students' performance, focusing on both verbal and non-verbal communication skills. ● Implement peer review sessions for presentations, discussions, and essays, encouraging constructive feedback and providing guidelines on effective feedback to ensure a positive learning environment.

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	Discussion Skills Active Listening	Advanced Discussion Skills Introduction to Interviews	Interview Techniques Follow-up questions Presentation Introduction	Presentation Skills Group presentations on an aspect of university life	Essay Writing Techniques

観点別評価	Evaluation Criteria	Evaluation Methods
Knowledge and Skills	Consistent engagement and meaningful contributions in class. Ability to use the techniques and skills developed in class. Understanding of vocabulary and grammar.	Observe participation and contributions in class Assign tasks that require analytical thinking and integration of personal insights. Use mock interviews to evaluate communication effectiveness
Critical Thinking, Judgement & Expression	Analytical responses and integration of personal insights. Clear, coherent responses and appropriate language. Demonstrates interview etiquette. Clear structure with effective introduction, body, and conclusion.	Incorporate peer and self-assessment components to encourage reflection on performance throughout course. Allow students to record presentations for self-review. Facilitate peer review sessions for students to provide feedback on each other's work.
Attitude Towards Active Learning	Demonstrates growth and actively incorporates feedback. Regular and active engagement with peers. Meets deadlines and utilizes class time effectively. Reflects on progress and sets personal language learning goals.	Keep records of students' regular and active engagement in class activities. Monitor students' ability to meet assignment deadlines. Assign tasks that require students to set language learning goals and reflect on their progress.

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校2年	情報	情報 I	共通	1	高校情報 I (実教出版) ベストフィット情報 I (実教出版)

教科・科目の概要と目標

学習方法と流れ

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するために資質・能力を育成することを目指します。

1. 情報社会に主体的に参画するため、法規や制度及びマナーを守ろうとする態度、情報セキュリティの知識や情報モラルを養うことを目指します。
2. 適切なコミュニケーションの実現のため、情報デザインやメディアの特徴を身に着けます。
3. 情報技術の科学的な理解のため、情報のデジタル化や、コンピュータの構成、ネットワーク及びデータベースの活用などを学びます。
4. 問題の発見及び解決のため、分析の方法やモデル化とシミュレーション、プログラミングの基礎を身に着けます。

- ① 本時の内容確認 → 講義・演習・実習 → 本時のまとめ・片付け
- ② 授業には、教科書・配布プリント・ファイル・iPadを用意しておくこと。
- ③ 実習は示された手順や注意点を遵守し、創意工夫をもって臨むこと。
- ④ 課題や実習などの取り組み状況及び提出状況は、平常点の一部として評価する。

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	<ul style="list-style-type: none"> ○コンピュータリテラシー ○コミュニケーションと情報デザイン ・アナログとデジタル ・2進数の計算 ・情報のデジタル化 	<ul style="list-style-type: none"> ○コンピュータのしくみ ・ハードウェアとソフトウェア ・コンピュータの構成と動作及び性能 ○プログラミングとシミュレーション ・プログラミングの基本 ・プログラミング実習 	<ul style="list-style-type: none"> ○プログラミングとシミュレーション ・関数 ・探索と整列 ○コミュニケーションと情報デザイン ・コミュニケーションとメディア 	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーションと情報デザイン ・Webサイトと設計と情報デザイン(実習を含む) 	<ul style="list-style-type: none"> ○データの活用 ・データの収集と整理 ・ソフトウェアを利用したデータ処理 ・データの分析 ・モデル化とシミュレーション

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	学期末考査、授業内小テスト、実習課題の完成度、及び提出物などをもとに総合的に評価する。
思考力判断力表現力	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	学期末考査、授業内小テスト、実習課題の完成度、及び提出物などをもとに総合的に評価する。
主体的に学習に取り組む態度	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。	授業への取り組み、実習課題への意欲(作品に取り組む態度、期日に向けての計画性)、及び授業内発表などについての自己評価、及び相互評価などをもとに総合的に評価する。